

●法宴会室

ロビー正面にあり、ホールと通夜室の中間に位置する。法宴会室・親族控室など多用途の利用に考慮した。

●導師控え室

式場ホール近くに、和室8帖の導師控え室を配した。掘床を備え、トイレを隣接して使用できる。

●通夜室

通夜室は専用玄関をもち、ご利用の方々が迷わずに分かり易い配置構成とした。

通夜室は和室21畳に地板付きの広さとし、正面に湯かん流しを設けた。

2本の檜の柱の建つ祭壇スペースは段差を設けていない。

通夜室前のロビーは会葬者が入り易いように玄関ロビーと一体的につなげた。

通夜の仮眠用に多めに収納できるように広めの納戸や専用の水屋を備えた。

全体での共有ゾーンとしてトイレ・洗面を設けた。

2階のプライベートゾーンには、ゆったりしたリビングスペースにキッチン付きとし、和室12帖に地板付きの仮眠室やゆったりと疲れをとれる浴室・洗面脱衣室を付属するなど、ご自宅の感覚でお使い頂けるように住宅のような雰囲気を大切にしたい。

●人にやさしい“ユニバーサルデザイン”

主要な式場ホールを1階に設けることで段差なくアプローチし参集ができる配置計画とするともに、階の移動には車いす対応の兼用エレベーターを設けた。

●2方向より利用の駐車場

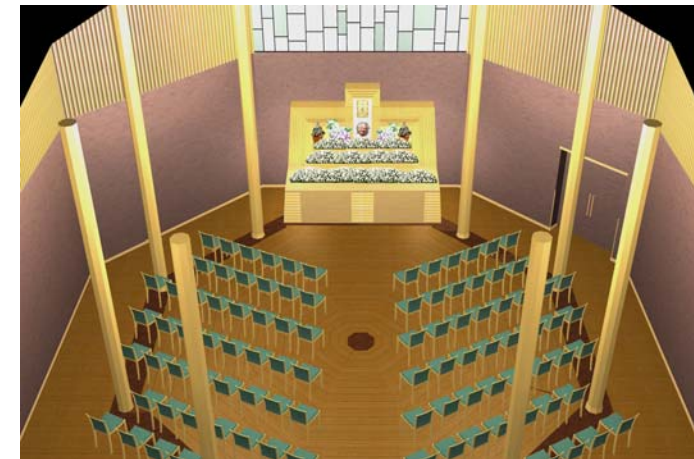
冬期間の利用を考慮し、地下水循環型の無散水の融雪設備を全面に敷設した。

■建築データ

○施設名	「平安典礼会館 セレモニーホール檜」
○建築主	株式会社 平安典礼 代表取締役 武田義弘
○設計監理	本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室
○施工期間	2009年7月5日～12月9日(167日間)
○施工	株式会社 千歳工務店 電気設備施工協力 東北電化工業株式会社 機械設備施工協力 遠藤設備建設株式会社
○融雪工事	日本地下水開発株式会社
○建設地	山形県山形市松町二丁目11番1
○住居表示	山形県山形市松町二丁目11-8
○主要用途	セレモニーホール(葬祭会館・通夜室)
○工事種別	新築
○都市計画区域	都市計画区域内
○用途区域	準工業区域
○防火地域	準防火地域
○容積率	200%
○建ぺい率	60%
○敷地面積	1929.57㎡(約583.70坪)
○建築面積	434.13㎡(約131.32坪)
○延べ面積	471.80㎡(約142.72坪)
○構造・規模	木造、地上2階
○最高高さ	8.350m
○施設室名	
・1階	式場ホール、法宴会室、導師控え室、通夜室 エントランスホール、給湯室 男子WC、女子WC、パントリー、事務室、
・2階	仮眠室、リビング、浴室、WC
・駐車場	駐車台数約45台(無散水融雪設備完備)

平安典礼会館

セレモニーホール檜



株式会社 平安典礼
本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室



● “檜”の樹をイメージし、交差点から判り易いホール屋根

山形市北部の桧町に位置する「平安典礼会館 檜」は、商業地区の幹線道路沿いの交差点に面している。東西に長く西側及び南側の二方向が道路に接する敷地は、周辺に高層の建物が無いために、周囲に大きくひらかれた明るい雰囲気をもつ。

建物を敷地の東北側に寄せ東西に長く配置することで、交差点側と南側を駐車スペースにでき明るさと広がりをもたせるとともに、会館がより判り易く認識しやすい配置とした。道路沿いには植栽を施し周辺環境に配慮するとともに、町名と会館名からシンボルとしての檜をそれぞれの角に植えた。

交差点側より最も見える位置に配した式場ホールは、「檜」の樹のイメージから大きく枝を伸ばしたように八角形をしており、屋根の形はその樹形のように勾配をつけ力強く西側に迫り上げている。会館そのものの形が各方面より訪れる方々に強い印象を残し記憶していただけるように、建物全体が看板となるように心掛けた。

この形はまた“灯火”をイメージし、現世から来世へ

の道しるべとなるべく“燈明”をも象徴している。この“燈明”“灯火”の思想は山形の地域を超えて深く精神文化に根差しており、そのコンセプトは一連の平安典礼会館（山形・霞城・大野目・天童・寒河江・東根）のイメージを形づくる重要な共通のテーマとなっている。

● “檜”を象徴したエントランスロビーと式場ホール

エントランスロビー空間には外界から入り葬儀に臨むために、これからの心の準備をする場でありまたふたつの世界を分ける場として、重要な役割が持たされている。

ロビーには「檜」の独立柱が列柱として2列に並ぶ8本の柱は、神聖な空間を感じさせながら、式場ホールへと導く。

西側の光を“後光”のように受ける式場ホールの空間は、光の入る高い窓に向かいゆるやかに昇っている。この天井の勾配は、祭壇に向かい上昇することを表している。

ホール内には、8本の「檜」の独立柱が建つ。この柱は祭壇と参列席を包むように、八角状に並ぶ。あたか

も檜の森の中に居るようなイメージをかたちにした。この「8」という数はこれまでの典礼会館においても繰り返し用いられており、宗教的にも深い意味合いを持つものである。

窓にはステンドガラスを模様貼りして構成した。光は様々な模様のガラスを通して間接光のように柔らかな光になり、包まれるような落ち着きのある雰囲気を醸し出すことを意識した。

ホールの中に降り注ぐさまざまな光は時間の移ろいで刻々と変化し、参列の方々に深く印象づけられることを期待している。

さらにステンドガラスと外部側サッシの間には、電動で昇降する遮光ロールスクリーンを設置し、光を遮ることもできる。

祭壇はその“後光”を受けるようにホールの正面に配置されており、このホールのために特別にデザインされたものであり、内部の柱と同じ檜材を使用し全体の統一感をつくりながら、その造形的なかたちは向かい合う方々の心象に深く語りかけるであろう。

式場ホールは多様な送葬のレイアウトを可能なように想定しており、八角形の形は対面式や囲い席式などに対応し易い。

席数は祭壇に向かう形式の場合で約100席としているが、さまざまな配置のパターンでレイアウトできるようにした。

ホール入口の扉は「台湾檜」のムク材を鏡板としており、重厚で品格があり数百年の時の流れを伝えるものであり、この会館の象徴でもあり有形無形の価値をもつ。

この扉を全開すれば席数をロビー側へも増やすこともできる。